

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500015		
法人名	株式会社 和		
事業所名	グループホームライフ		
所在地	宮崎県小林市野尻町東麓1089番地の1		
自己評価作成日	平成26年5月26日	評価結果市町村受理日	平成26年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4590500015-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=022">http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4590500015-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年6月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺には田畑が広がり、ホームから季節を感じる事ができる。『笑顔でその人らしく』『笑顔』『温かみのある』『家庭的な』『地域の一員』を理念とし、利用者様一人ひとりに応じた介護ができるよう、職員は常に努力している。また、家族様との関わりにも努め、2か月に1回ホーム便りの発行、面会時、推進会議での情報公開、意見交換を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、指導力を発揮して職員との意思の疎通を十分に図っている。職員と利用者が場所を離れる時には、職員同士で声を掛けあい、所在確認をし、職員間の流れがスムーズに行われている。利用者への対応は、無理強いすることなく、簡単に諦めることなく、工夫をしながら対応している。職員は、利用者への声掛けなどへの反応に間を置いて支援している。利用者本位の細やかな配慮がなされている。利用者の笑顔がよく見られ、温かい雰囲気作りがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを意識し、実践に取り組んでいる。見えやすい場所に理念を掲げ、いつでも確認、意識できるようにしている。	「地域の一員として楽しく過ごせるように支援する」という理念を実践につなげている。職員は掲げられている理念を見て、支援に生かす努力をしており、利用者に笑顔が見られ、明るい雰囲気が生じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物、奉仕作業に積極的に参加している。利用者様と近くの店に買い物に出かけたり、施設での行事には参加を呼び掛けたり、慰問に来て頂いている。	利用者と職員のちり拾いや職員の清掃作業参加により、知り合いになった人々からの情報を得て、地域の行事等に参加している。隣の菜園の人が野菜類を持って訪れたり、知人の来訪など地域との付き合いがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ防災訓練、施設の行事、敬老会等への参加を呼びかけ、協力をもらい、理解や支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、活動報告を行うとともに、利用者様や家族、近隣住民の方も参加して頂き、幅広い意見を取り入れるように取り組んでいる。出た意見等については、ミーティング等で話し合い実践に繋げている。	開催を利用者の姿が見える場所で行ったり、夜の時間帯に行ったりして、ホーム内の状態を委員に知ってもらうよう工夫している。定期的に会議がなされているが、委員からの質問に答えるだけという傾向がみられる。	前もって議題等を提出し、提案や要望などが出る双方向的な会議になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議には、市、地域包括支援センターの担当者にも参加頂いている。また、必要時には担当者へ連絡を取り、助言・指導を頂き日々の業務に活かしている。	管理者は、担当者に疑問点を電話で尋ねたり、研修で担当者と会い、会話を交わすなど関係を保つようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている。玄関の施錠は基本的に行わない。ミーティング時に職員同士、身体の抑制についての勉強会を取り入れている。	玄関は常時開錠されている。外に出ようとする利用者には見守りに対応している。ミーティングで、言葉による拘束について具体例を出し話し合っているが、記録に残していない状況である。	言葉による拘束への具体的な話し合いを記録に残し、職員が繰り返し読んで活用できるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている。日々の業務、ミーティング時に確認、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいないが、制度に関する研修があれば参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。不安や疑問な点がないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様にはいつでも意見、要望を言えるような雰囲気づくりに努めている。ご家族様には玄関先に意見箱を設置し、また、推進会議に参加して頂き意見交換を行っている。	来訪時に家族に意見、要望を尋ねている。利用者には意思疎通ができる人が多いので、意見や要望を聞くことが可能であり、支援につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング等で意見、要望等を聞いている。また、個別にも話を聞く機会を持つようにしている。	管理者への意見や要望が自由に出され、運営に活かされている。休みや代休を取る人に差があるので、回数固定を望む声があり、管理者は検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりに応じて助言、指導をし、勤務状況、実績を把握し、各自が向上心を持って働くことができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加している。年に数回は内部研修も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等の際には、他の事業所の職員との意見交換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の不安等の感情を全職員が受け止め、できる限りその利用者様に関わる時間を作っている。また、本人、家族から今までの生活状況を聞き、本人との関わりを十分に持ち、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ず家族の意見、要望をしっかりと聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスを提供できるように、職員間で話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護しているという一方的な考えを持たず、一緒に生活している者同士としての関係を築いている。今までの生活の中で得た知識を活かし、教えて頂きながら支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子等を面会時、また、遠方の方へは電話で報告している。職員では対応できない時には、家族に協力をもらっている。定期的に通信を発行し、生活の様子等を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来やすい環境作りをしている。馴染みの方が面会に来られた際には、関係が途切れないようお願いしている。面会時は写真と一緒に撮ったりして、楽しいひと時を過ごせるようにしている。	知人の来訪、入居以前のなじみの店への買い物などの継続がなされている。以前に、道路をはさんだデイサービスを利用していた利用者が、そこを訪ねて知人と会話ができるように、職員間で連絡を取り合って支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性について把握し、心身の状態、日々の感情が変化する方、利用者様同士の関係がうまくいくように、職員が仲介役となり支援に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先の関係者へ、今までのケア等の情報を提供している。また、可能な限り面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の話を聞き、思いを把握し、希望が叶うように支援している。	意思疎通ができる利用者が多いので、思いを把握し支援に生かしている。把握の難しい利用者には、1対1で向き合ってみると、相応の反応があるので支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、家族から伺ったり、日常生活の中で一人ひとりの生活歴、馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできる事、できない事、心身状態の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人へどのような生活を望んでいるか尋ね、計画に反映するようにし、家族へも本人の望みを話し、理解を得ています。月1回のミーティング時にケース検討を行うとともに、日常的にスタッフ間で情報交換を行っています。	介護記録等を活用して、3か月ごとの見直しと計画書の作成を行っている。現在、対象者はいないが、利用者の状態変化時には関係者と話し合い、介護計画を作成することになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、本人の言動、行動を記録し、職員間で情報が共有できるように努めている。また、記録を基にプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列病院があるため、医師、看護師との連携を密にしている。急変時には迅速な対応が取れるよう、協力体制ができています。		

宮崎県小林市野尻町 グループホームライフ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店、公共機関へ出かけ、利用者様の方々を理解して頂き、様々な場面で連携に繋がるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や入所前のかかりつけ医での医療を受けており、家族と協力して通院介助を行っている。	母体の病院をかかりつけ医にしている利用者が大部分で、受診には職員が同行し、口頭で日頃の状態を伝えている。他のかかりつけ医の場合は家族同伴で行われ、家族に利用者の状態をメモで渡し病院に提出してもらい、結果は家族から口頭で報告を得て、全てのスタッフが把握できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル、身体の状態の変化、また、気づいたことがあれば、併設する施設の看護師、訪問看護師へその都度報告し、指示を仰ぎ受診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療関係者への相談・情報交換を行っている。入院時には面会に伺い、問題が発生した時は利用者、家族、医療関係者、事業所との情報交換を密に行い、安心して治療ができるように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化、終末期に関する方針を説明し、家族の意向を聞いている。現在まで看取りを行ったことはないが、協力医との情報交換等を常に行っている。	契約書に看取りの指針が記されており、入居時に説明している。これまでに看取りの経験はないが、看取りを希望する方の入居があったので、医師からの研修や職員との意見交換などを行う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生、AEDの使用法等の研修に参加している。また、事故発生マニュアルを基に対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署への協力を得て、避難訓練や消火器の使い方などを定期的に訓練している。災害時の協力体制を築く為に、近隣の方へも参加を呼びかけている。	定期的な訓練や夜間想定避難訓練を行い、消防署からの具体的なアドバイスも受けている。利用者各自に着替え、水、乾パンを入れた避難袋を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドが傷つかないように、声掛けには十分配慮している。入所時には契約書を作成し、署名、捺印し個人情報取り扱いにも気を付けている。また、その方の生活空間を乱さないようにしている。	押し付けるような言動を避け、同じ目線で敬意を払って接するようにしている。慣れ親しんだ呼び方を好む利用者には、それを使うようにしている例もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症であっても自己決定しやすいよう工夫し、日ごろから利用者様の思いや希望を伺うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、利用者様一人ひとりのペースに合わせてその日の状態、思いに気を配りながら、できる限り希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は、できる限り本人に選んでもらっている。本人の希望を聞きながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後のテーブル拭き、下膳などそれぞれ出来ることをして頂いている。食事前には献立の話をし、食事に楽しみが持てるように支援している。	隣接の有料老人ホームの厨房から、ホーム独自のメニューの料理が届けられるようになっている。職員も同じものを食べながら、楽しく会話ができるような食事の支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、少ない方には補助食品等を使い、色々な工夫をしながら摂っていただく様にしている。一人ひとりに合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、誘導、見守りを行っている。できない方は介助をしている。夜間は洗浄剤へ浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向けて、足、腰の筋力維持の為に歩行訓練等を行ったり、一人ひとりの排泄パターンを知り、時間ごとにトイレ誘導を行っている。	排せつパターンを活用し、サインを見逃すことのないよう支援をしている。地道な支援により、リハビリパンツから布パンツに移行できた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、水分量や食べ物、下剤の調整、腹圧マッサージや運動への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めているが、本人の状態、希望を聞きながら入浴してもらっている。入浴を拒む方へは声掛けを工夫したり、入るタイミングを逃さないように誘導している。また、季節を楽しめるように、バラ湯、ゆず風呂といった入浴の工夫をしている。	入浴するかどうかの確認を取っている。望まないという利用者には、時間を置いて確認を取り支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や身体状況に応じて、必要な安眠や休息ができるよう支援している。起床、就寝時間は、個々の生活リズムに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに処方箋を綴り、目的、用法などを確認、把握できるようにしている。状態の変化、気づいた事は看護師に伝え、主治医との連携がスムーズに行えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室のモップ掛けや洗濯物干し、畳み等、一人ひとりに応じた能力を活かせるように努めている。希望に応じて買い物支援を行い、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	自力にて移動できない方も、積極的に外出する機会を作ってドライブや買い物、散歩、季節毎の花見などに参加している。	散歩や買い物での外出支援がなされている。菜園にベンチを運び茶会を開くなどの外気浴もなされている。特別な遠出外出も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、現在1名の方が自己管理されている。買い物支援時はそこから支払いをしている。管理できない方は職員が管理し、定期的に家族へ出納報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話を掛けることができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や塗り絵、カレンダーなどを一緒に行うことで、季節を感じて頂けるよう工夫しています。	管理者と職員は、清潔さを保つように心がけている。リビング兼食堂でもあるために、テーブルにキャスターを付け、移動できるように工夫している。あじさいの花がテーブルには置かれていた。食事時はテレビを消し、会話の妨げにならないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	併設施設へ自由に行き来し、気の合う方同士の語らいが可能になるよう支援している。また、季節に応じ、玄関先にベンチを設置し、自由に使えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や使い慣れた布団、タンス、着なれた衣類などを家族が用意し、シーツ交換、居室の掃除をし、少しでも居心地良く過ごせるよう工夫している。	職員と利用者で話しながら居心地のよい部屋の工夫をしている。家族来訪時には職員が写真を撮り、部屋に貼ったり、家族が持ってくる写真も飾ってある。散歩で摘んだ草花を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーに対応しており、各箇所には手すりがついている。自立、安全を確保した環境になっている。一人ひとりの能力に合わせ、できることを行っている。		